

分野・専門名： 日本史学

試験科目： 史料解読

【正解・解答例】

問一

(一) この国、関を停むるの後、往来を制せず。茲によりて、東海道諸国の牧宰、五位已上意に任せて道を枉ぐ。また、孫王擅に以て出入し、人民騒動し部内静かならず。禁止を加ふと雖も積習遵はず。望請すらく、特に厳制を下し将来を慎ましめんことを。謹んで官裁を請ふ。

(二) 不破関。中央での反乱勢力が東国へ脱出して軍事力を微発するのを防ぐため。

(三) 本来東海道諸国の国司は東海道の鈴鹿関を通して任国と京の間を往復すべきところ、勝手に東山道をつかうことをいう。

(四) 王臣家と総称される階層が、私利を求めて、諸国において百姓の生業を妨げたり、国司が租税や力役を徴発するのを妨げることが問題とされた。

問二

(一) 宛名が島津家久であることから、そののち島津家・薩摩藩に伝来し、島津家文書のなかに含まれたと考えられる。

(二) 大坂古参^{おおさかこさん}の者^{もの}は、望^{のぞ}み次第^{しだい}に相拘^{あいかか}えらるべき旨^{むね}、上意^{じょうい}候^{そうろう}の間^{あいだ}、其^その意得^{いとく}を成^ならる^{なる}(成^なさる)べく^{そうろう}候^{こう}

(三) 滅ぼされた大坂城・豊臣氏のこと。

(四) 新参之者

(五) 古くから豊臣氏に従っていた者は、島津氏が新規に召し抱えても差し支えないが、大坂の陣で徳川氏に反抗することを目的に、新たに豊臣氏に従った者は、島津氏が新規に召し抱えてはならないという、将軍秀忠の意向を示している。

(六) 江戸幕府年寄等(将軍秀忠側近等)連署奉書

問三

(一) 聖上^{せいじょう}いよいよ御機嫌^{ごきげん}よくいらせられ、些^{いささ}かの御障^{おさわ}りもあらせられず候^{そうろう}御事^{ごんこと}、恐悦^{きょうえつ}のいたり、御安堵^{ごあんど}なさるべく^{そうろう}候^{こう}

(二) 天気伺：参内して天皇にあいさつすること

御内儀：朝廷の奥向き

(三) 物価が騰貴する一方、米価は下落したため、政府は米の輸出促進の政策を実施した結果、米価は上がった。

(四) 岩倉具視を特命全権大使とし、政府首脳や留学生をアメリカやヨーロッパに派遣し、不平等条約の改正交渉や西洋の文明を取り入れるための調査を目的に派遣された。条約改正については失敗したもの、文明開化のための視察は大きな成果を得た。

(五) 宮中では、天皇を中心に人々は椅子に座ったり、洋服を着るようになったり、洋食を食べるなど、欧米化が進行した。

(六) 松平慶永。越前福井藩主として藩政改革を行い、政事総裁職として幕政改革を推進した。明治新政府では議定、民部卿や大蔵卿などの重職を歴任した。

分野・専門名：日本史学

試験科目：史料解読

【出題の意図】

問一

- (一) 官符における引用関係を読み取ることができるかどうかを問う。
- (二) 不破関を含む三関の機能について理解しているかどうかを問う。
- (三) 国司の移動経路に関して「枉道」の問題を理解しているかどうかを問う。
- (四) 9世紀における王臣家の活動について理解しているかどうかを問う。

問二

- (一) 歴史史料の伝来に関する基礎的理解を問う。
- (二) 史料の基礎的な訓読能力を問う。
- (三) 史料の基礎的な読解能力を問う。
- (四) くずし字の基礎的な読解能力を問う。
- (五) 史料の基礎的な理解能力を問う。
- (六) 古文書学の基礎知識を問う。

問三

- (一) 史料の基礎的な訓読能力を問う。
- (二) 史料に書かれている用語について説明できる力を問う。
- (三) 史料の基礎的な読解能力を問う。
- (四) 明治前期の主要な出来事に関する知識を問う。
- (五) 史料の基礎的な読解能力を問う。
- (六) 幕末・明治維新期の主要人物に関する知識を問う。

分野・専門名： 日本史学

試験科目： 日本史学

【正解・解答例】

問一

奈良時代の興福寺

藤原氏の氏寺として出発した興福寺であるが、平城京遷都にともない平城京東張出部に移転した後は、藤原氏と天皇一族との姻戚関係を背景として、元明天皇・元正天皇が北円堂を、聖武天皇が東金堂を、光明皇后が五重塔および西金堂を造営するなど、天皇、皇后の発願寺院としての性格をつよめ、「大寺」の一つに数えられるようになった。このうち西金堂については、正倉院古文書中の「造仏所作物帳」によって造営の具体的なあり方を知ることができる。

計帳

律令制下における公文書の一つ。民衆を登録して調庸や力役を徴収するための台帳として用いられた。戸令の規定によれば、計帳は毎年作成され、戸を単位として所属する人の名や戸主との続柄、年齢等を書き上げて、各戸から提出させた自己申告書である手実、国でこれを里単位に統合した歴名、歴名から人口にかかる情報を抽出して整理した統計文書である大帳（大計帳）がある。狭義の計帳は大帳にあたる。大帳は京進されたが歴名が京進されたか否かは議論がある。正倉院古文書中にも計帳があるが、実際には国で作成したもの「手実」を自称することもあり、令規定通りに運用されていたわけではない。

地下じげ

もとの意味は、清涼殿に昇殿できないこと、またはできない人。堂上、公卿、殿上人の対義語。鎌倉時代のころから、下級貴族の家格として成立し、江戸時代には地下官人とよばれる実務をささえる下級貴族の集団がみられた。また、一般に正式な地位をもたない庶民の呼称となり、荘園制のもとでは地頭、荘官に対する名主・百姓の呼称として、中世史料に広く見出される。

五山文学

鎌倉時代に中国から渡来した禅僧らを招いて、鎌倉や京都に五山とよばれる禅宗寺院が成立し、これら五山を拠点とした禅僧らが手がけた漢詩文のこと。初期に大きな影響を与えた禅僧として、渡来僧一山一寧がおり、高等学校教科書では、室町幕府のもとで活躍した義堂周信、絶海中津らの名がよく知られている。近年は、自治体史などで地方史料として五山文学作品が参照、利用されることも多くなった。

禁中並公家諸法度

元和元年に発布された、天皇・公家衆・親王・門跡という公家社会の根幹にかかわる法度。禁中は天皇。幕府の朝廷対策として、天皇をも包含する基本方針を確立した。一七か条からなり、第一条は「天子諸芸能之事、第一御学問也」と、天皇に関しての規定がなされている。この法度の内容は階級編成という面に力点をおいて制定されたもので、朝廷の主体的行動その他を拘束するとともに、江戸時代の公武関係を規定する法度となった。

中山みき

天理教開祖。大和国（奈良県）の地主の主婦であったが、四〇歳ごろから宗教的な活動を展開し、安産と病氣なおしの祈祷で付近の農民の信仰を集めた。幕末には教義と儀礼が急速に整っていく。明治維新後、政府による上からの国民教化が実施されると圧迫をうけたが屈せず、教勢拡大につとめた。禁圧下で天理教は全国的な発展をつづけ、教団幹部は中山みきの意に反して国家神道のわく内で活動を合法化するための工作を進めた。

ボアソナード

パリに滞在中の井上毅らに憲法や刑法を講義したことが縁となり、明治政府から招聘された。以後、長きにわたって日本に滞在し、多くの業績を残した。帝国大学などにおいて法学教育に尽力し、法律家を養成した。また、政府諸機関に顧問として助言や献策を行った。法典編纂では、まず刑法の草案起草に取り組んだ。ついで草案起草にあたった民法は、1890年公布の民法（旧民法）に結実したものの、法典論争の結果、施行が延期となった。

愛国婦人会

出征軍人や傷病兵の慰問、軍人遺家族の援護などを目的として、1901（明治 34）年に奥村五百子が創設した婦人団体。多くの女性皇族・王公族が名誉会員に名を連ねた。初期は上層階級の婦人や皇族、貴族が大半を占めていたが、日露戦争時の 1905（明治 38）年には一般婦人にも拡張し、軍事救護活動だけでなく、広く社会的な事業を行っていくようになる。1942（昭和 17）年には婦人団体の統合が求められ、大日本婦人会に統合された。

問二

この設問は、受験者の日本史学にかかわる知識について、自身の専門と志す時代やテーマを中核として、通史的な考察を押し及ぼせる文章の構想力、論理性、および独自性を問うものである。卒業論文等に代替する小論文と位置づけているため、固定的な正解文例は想定していない。受験者の幅広く豊富な読書に基づく的確な先行研究把握と、論理的で独自性の高い時代観、社会観、人間観の提示を期待するものである。

分野・専門名：日本史学

試験科目：日本史学

【出題の意図】

問一

奈良時代の興福寺・・・奈良時代における大寺の一事例について理解しているかどうかを問う。

計帳・・・令制下の民衆支配にかかる公文書である計帳について理解しているかどうかを問う。

地下・・・中世史料に頻出する基礎的な用語の知識について問う。

五山文学・・・高等学校教科書でも学ぶ日本中世史の代表的な学術概念に関する基礎知識を問う。

禁中並公家諸法度・・・高等学校教科書でも学ぶ日本近世史の代表的な法令に関する基礎知識を問う。

中山みき・・・近世後期から明治期に活動した宗教家についての知識を問う。

ボアソナード・・・明治期「御雇外国人」として代表的な人物についての知識を問う。

愛国婦人会・・・戦前に国防・遺族のために組織された団体に関する基礎知識を問う。

問二 出題したテーマにかかわる通史的な知識、文章の論理性、構想力および独自性を問うものである。

分野・専門名： 東洋史学

試験科目： アジア史基礎

【正解・解答例】

(1) 安史の乱

安史の乱は、唐の玄宗の治世末期、755年に節度使の安禄山が起こした反乱である。安禄山は三節度使を兼任し、宮廷でも玄宗の信任を受けて大きな勢力を誇っていた。楊貴妃の一族で宰相となった楊国忠と対立したことを契機に、安禄山は挙兵し、洛陽と長安を占領した。玄宗は四川へ逃れ、皇太子が肅宗として即位した。安禄山、安慶緒、史思明、史朝義と指導者をかえながら反乱は続いたが、唐は肅宗のもとでウイグルの援助を得て長安・洛陽を奪回し、763年、代宗の治世に乱は平定された。

(2) 郷挙里選

郷挙里選は、地方長官などが郷里の人物評価に基づき官僚候補者を中央政府に推薦する、漢代の官吏登用制度である。前漢の武帝期に孝廉科が創設されてから本格的に実施されることになった。孝廉は、後漢に至って盛行し、郷挙里選の主流となった。豪族の子弟が多く推薦されたため、豪族の中央官界進出を促す結果となった。

(3) 康熙帝

康熙帝は清朝第4代皇帝であり、幼少時に即位し、約61年にわたり在位した(在位：1661-1722年)。三藩の乱や台湾の鄭氏政権を平定し、国内を統一した。ロシアとの間にはネルチンスク条約を締結して北方国境を定め、外モンゴルのジュンガル部の討伐により清朝領を拡大した。学問を奨励し、「皇輿全覽図」作成や『康熙字典』の編纂など、文化面でも功績を残した。

(4) 『史記』

『史記』は、前漢時代に司馬遷が編纂した歴史書である。伝説上の黄帝の時代から前漢の武帝期半ばまでが扱われている。本紀、年表、書、世家、列伝か

らなり、最後に司馬遷の著述の意図を示した「太史公自序」が付されている。本紀は歴代王朝の編年史、世家は諸侯国の歴史、書は祭祀・税制など分野別の歴史である。このように本紀、列伝などから歴史書を構成する形式は紀伝体と呼ばれ、以後の官選の正史の標準となり、『史記』は中国最初の正史と位置づけられた。

（５）商鞅

商鞅は戦国時代中期の政治家で、法家の思想家でもある。衛の公室の子孫であった。秦の孝公の宰相となって、二回にわたる大政治改革（変法）で、人々の連帯責任制や土地・戸籍の整備、度量衡の統一などの政策を断行し、秦の富国強兵に大きな役割を果たした。その功により商に奉じられたが、孝公の死後失脚し、処刑された。『商子』（あるいは『商君書』）は商鞅の学説を伝えている。

（６）青苗法

青苗法は、北宋の王安石が 1069 年に実施した新法の一つで、政府が農民に対し比較的低利（年利 2 割程度）で穀物や銭を貸し付け、収穫時に返済させる制度である。これは、当時 6～10 割の高利で貸し付けていた地主や富裕層の収益を圧迫したため、彼らから強い反発を受けた。この施策の当初の目的は農民救済と高利貸し排除だったが、同時に国家歳入の確保を図る財政政策でもあった。

（７）チャガタイ＝ハン国

チャガタイ＝ハン国は、中央アジアの東西トルキスタンを中心とした地域に存在した遊牧国家で、チャガタイ＝ウルスとも呼ばれる。モンゴル帝国の創始者チンギス＝ハンの次男チャガタイが 13 世紀に得た所領を元になっている。大ハンの影響下に置かれていたが、14 世紀初頭に政治的自立を果たした。首都はアルマリクに置かれた。14 世紀半ば、東西に分裂した。西部からはティムール朝の創始者、ティムールが台頭した。

（８）「中体西用」

「中体西用」は、清朝末期の 1860 年ごろから展開された、洋務運動の理念である。「中華の伝統（中体）を本体とし、西洋の技術（西用）を応用とす

る」という思想であり、洋務運動はこの理念のもと、清朝の支配体制の維持を前提としてヨーロッパの近代技術導入を中心とする富国強兵をめざした。太平天国の乱を鎮圧するのに功績のあった曾国藩・李鴻章・左宗棠らの漢族官僚、および恭親王奕訢らの、洋務派と呼ばれる人々が運動を主導した。改革は軍事工業部門から始まり、1870年代には軽工業部門に拡大した。鉄道建設、鉱山開発、同文館などの洋式学校の設置、留学生派遣などもおこなわれた。しかし清朝支配体制維持が前提であったため、次第に行き詰って、日清戦争の敗北でその限界が明らかになった。

(9) 北魏

北魏は、五胡十六国時代に鮮卑の拓跋氏が建てた国家である。386年に建国され、439年に第三代皇帝の太武帝のもとで華北を統一した。太武帝は寇謙之を徴用して道教に帰依し、廃仏政策を断行した。5世紀後半には第六代皇帝の孝文帝が均田制（485年）と三長制（486年）を実施し、土地と民衆の管理体制を整えた。さらに494年には平城から洛陽へ遷都し、衣服・言語・姓氏の変更など漢化政策を徹底した。しかしこれにより従来の部族制が崩壊し、北辺の軍事拠点（六鎮）に住む人々の不満が高まり、524年（523年）に六鎮の乱が勃発した。これを契機に政局が混乱し、534年に北魏は東魏と西魏に分裂した。

(10) 煬帝

煬帝は隋の第2代皇帝（在位：604-618年）で、大運河の建設をはじめとする大規模な土木事業を推進した。大運河は南北を結ぶ交通の大動脈となった。対外的には、吐谷渾や突厥を討伐し、林邑に対しても外交的関与を強めた。高句麗には三度にわたり遠征したが、いずれも失敗に終わった。こうした政策は民衆に重い負担を強いることになり、各地で反乱が発生した。最終的に煬帝は部下によって殺害され、隋は短命に終わった。

分野・専門名： 東洋史学

試験科目： アジア史基礎

【出題の意図】

アジア史に関する基礎的知識を有しているかを問う。

分野・専門名： 東洋史学

試験科目： 漢文文献解読

【正解・解答例】

(解答例)

皇帝はその言に従い、民を募って塞下（辺境地帯）に移民させた。（鼂錯）はまた上言した。

「陛下は幸いに民を募り、たがいに移住させて塞下を充実させ、屯戍のことをますます省き、輸送の費用をますます少なくされたことは、非常に大きな恩恵です。下級の役人が本当にこの厚い恵みを称え、明らかな法令を奉じ、移された民の老人・弱者を憐れみ慈しみ、壮士（壮年の男子）を善く待遇し、かれらの心を和らげまとめて侵し苦しめることもなく、先に来たものが安楽に暮らして故郷を思うことないようにさせることができれば、貧しい民はたがいに誘いあって移住してくることでしょう。わたくしはこう聞いております。古代、民を遠方へ移住させて広大空虚の土地を充実させるには、その陰陽の調和を見、その水泉の味を嘗め、その土地のよいところを審らかにし、その草木の饒かさを観察し、そのうえで邑をつくり城郭を建て、里をつくり宅地を割り当て、耕作の道を通じ、阡陌（畦道）の境界を正し、まず家屋を建て、家は一堂・二房とし、門戸の閉があって、器物が置けるようにする。民が移住してくれば住むところがあり、作業をすれば用いる物があるようにする、このようにすれば、民は気軽に故郷を離れ、新たな邑へ行くことを勧めることができる。また、医者や巫を置いて、疾病を救い、祭祀を修め、男女の婚姻があり、たがいに生死を憐れみ慈しみ、たがいに墳墓を並べて作り、樹木を植え家畜を育て、家屋を完全で安全なものにさせる、これが民にその場所を楽しませ、長くそこに居たいと思わせる方法なのです。」

分野・専門名： 東洋史学

試験科目： 漢文文献解読

【出題の意図】

東洋史学で基本史料として用いられる漢文（古漢語）文献の読解力を、代表的な中国史書の一つである『漢書』を例として問う。

あわせて、日本語を母語としない受験者の日本語表現力についても評価の対象とする。

分野・専門名： 西洋史学

試験科目： 西洋史学

【正解・解答例】

【解答のポイント】

問題文に記されている通り、幅広い時間・空間の中で、すなわち古代から現代までの時間、そして西洋という空間の中で、選択したテーマに関する多くの具体例を挙げつつ、論理的に記述がなされているかを見る。

分野・専門名： 西洋史学

試験科目： 西洋史学

【出題の意図】

西洋史に関して学んだ知識や概念等を、論理的かつ具体的に記述する能力を見る。

分野・専門名： 西洋史学

試験科目： 英語

【正解・解答例】

問 1

歴史空間にわたる貧困と慈善の問題は、これまで学際的に異なる神学間で比較的観点から検討されることは稀であった。1960年代以降の研究はもっぱらキリスト教世界、つまり中世・近代初期ヨーロッパ、そしてわずかにビザンチンに焦点をあててきた。最近まで、ユダヤ教やイスラム教におけるこの側面はほとんど研究されてこなかった。しかし、以下の論集は、歴史を通じてキリスト教、ユダヤ教、イスラム教がどのように貧困や慈善を扱ってきたかを通時的に比較する先例のない機会をもたらししている。

問 2

救貧の諸制度は、情け深い社会を築こうとする敬虔な願いからもたらされるのか、または主に経済的圧力や人口的傾向、社会的地位を得ようとする欲への反応なのか？

問 3

主な違いは、誰がまさに慈善にふさわしく、誰が慈善を行う義務があり、どのような形の慈善がなされるかに関わっていた。

問 4

1. regardless 2. Accordingly 3. that 4. however 5. Moreover 6. though

分野・専門名： 西洋史学

試験科目： 英語

【出題の意図】

西洋史に関連する英語の論文を正確に読んで意味を解釈し、日本語に訳す力を確認する。

分野・専門名： 西洋史学

試験科目： ドイツ語

【正解・解答例】

- ① それゆえ、私の課題は以下の二つ、すなわちポリス成立に果たした貴族の役割と、貴族ではない人々が段階的に政治的決定により深く関わるようになった過程に照準を合わせることである。
- ② それ（ポリスとは何か）は、われわれがギリシアのポリスとは何であるのかを定義するよう強要されない限りにおいては、自明なことである。
- ③ そのため、ギリシア人によってポリスと呼ばれたすべての共同体が、現代的な意味においてポリスであったのかは、未解決のまま残された。

分野・専門名： 西洋史学

試験科目： ドイツ語

【出題の意図】

平易なドイツ語で書かれた論文の一節から3つの文章を選んで和訳させることで、基本的なドイツ語の読解力を問う。

分野・専門名： 西洋史学

試験科目： フランス語

【正解・解答例】

- (1) その日、ヨーロッパが生まれた。まだとても狭くとても脆弱ではあるが、そこから生まれてきたところの帝国の後まで生き延びることになるヨーロッパのことである。
- (2) 内海となった地中海は、ローマ帝国の一体性を保証した。地中海は、そこに接する全ての地方の間での商品、思想、信仰の絶え間ない交換・交流を確立し、維持するのを可能にした。
- (3) しかし、蛮族の勝利以降、少なくとも西方では、この莫大な努力のうちもはや何も残っていなかった。

分野・専門名： 西洋史学

試験科目： フランス語

【出題の意図】

フランス語で書かれた歴史学の研究文献を、文法の諸規則やコンテキストを踏まえて、読解する能力を持っているかどうかを問う。

分野・専門名：美学美術史学

試験科目：日本東洋西洋の美術

【正解・解答例】

①現図曼荼羅

現図曼荼羅は、空海が入唐した際に師の恵果から与えられ、日本に持ち帰った両界曼荼羅を根源とする図像系統に属する両界曼荼羅の総称である。一般に空海請来本系とも称される。

「現図」の名称は、十世紀に真寂親王が著した「胎藏諸説不同記」において、曼荼羅を分類して「現図」、「山図」、「或図」という言葉が用いられたのに基づいている。

空海が唐から持ち帰った品々を記録した「御請来目録」には、唐の宮廷画家である李真等十人に描かせた五幅の曼荼羅が記されるが、この内、七副一丈六尺の胎藏大曼荼羅と同寸の大幅の金剛界曼荼羅が、現図曼荼羅の根本曼荼羅であるとされている。

しかし『性霊集』にあるように、この根本曼荼羅は間もなく朽損が激しくなり、尊容が分からなくなったため、弘仁十二年（821）に第一転写本が作成された。

この第一転写本も現在は伝わらず、東寺に伝わるなかで最も古いのは、建久二年（1191）、詫磨勝賀が描いた第二転写本（東寺甲本）であるが、これは断片的な形でしか残っておらず、かすかに往時の姿をしのばせるにすぎない。

また高野山には久安六年（1150）平清盛が奉納したいわゆる「血曼荼羅」があるが、これも現図曼荼羅の図像に基づいた古い作品である。「血曼荼羅」は全体が比較的完好に残っている。

上記「血曼荼羅」は彩色本の現図曼荼羅の中では最も古い作例だが、これより古いものに、「高雄曼荼羅」という名称で知られる神護寺蔵の両界曼荼羅がある。この作品は、紫綾地に金銀泥で尊像が描かれるという特異さがある。淳和天皇の御願により空海が神護寺の真言堂にかけると天長六年（829）から十年（833）までの間に描かせたと推定されている。図像は空海が請来した原本に基づくか、第一転写本に基づくか判然としないが、画技は優れており、唐代の宮廷絵師の画風を透かし見せるような端正な形態感を的確な線描でとらえている。

②大徳寺聚光院の障壁画

大徳寺の聚光院は、一時期畿内の支配を確立した三好長慶（1522～1564）の菩提を弔うため、息子の義継が造営した。開山には、大徳寺一〇七世・笑嶺宗訢を迎えている。開創時期は諸説あるが、一般には笑嶺の伝記である「祖心本光禅師行状」に記される、永禄九年（1566）と考えられている。この年、三好長慶の葬儀も行われている。

建物は、禅宗方丈建築の原則に則り、六室で構成されている。各室は、北東の書院を除いて、狩野松栄・永徳親子が襖絵を担当している。永禄九年に、父松栄は48歳、息子永

徳は24歳である。

永徳は室中と檀那の間を担当している。この内特に注目されるのは、室中の「四季花鳥図」である。画面は、祖父狩野元信の描いた「四季花鳥図屏風」の構成を参照しながらも、永徳は自らの感性でアレンジを加えている。特に近接拡大傾向が顕著であり、永徳画においては、松の幹は極端に太くなり、幹や枝のたわみもきつくなっている。また筆致も運動感が強く力強いものになっている。

元信の屏風では松樹はやや奥に配置されていたが、永徳の襖絵では松が画面の最前景で地面に脚を踏ん張るように太い根を生やしている。永徳のいわゆる大画様式が早くも顕著に現れた作例として注目される。この画風が後に、豪壮と言われる安土桃山時代の基本様式につながってゆく。

一方、松栄は衣鉢の間と礼の間を担当している。衣鉢の間の「竹虎遊猿図」、礼の間の「瀟湘八景図」とともに、永徳の室中画と同じ行体の柔らかい筆致で描かれているが、永徳の室中画とは異なり、描かれたモチーフは近接拡大されず、むしろ緩やかに奥へと後退していくように描かれている。永徳の室中画が前へと迫ってくるかのような圧力を感じさせるのに対し、松栄の作品はむしろ部屋を広く見せるような効果を感じさせる。

対照的な画風の両者だが、それぞれ狩野元信の画風の二側面を個別に継承したと考えられている。

③聖史劇

タブロー・ヴィヴァンとも称す。特に中世から近世にかけて西欧において君主による市の入市式やキリスト教暦の祝祭日に際して上映された宗教劇の一形式を指す。日本語では神秘劇や奇跡劇とも称される。旧約聖書や新約聖書の四福音書、黄金伝説などのキリスト教文学を主題とし、市の広場や聖堂などで上演された。聖史劇においてはセリフや身振りを伴うが、言葉や動きを伴わない活人画（タブロー・ヴィヴァン）も多く上演された。聖史劇や活人画の上映に際しては、市の画家、彫刻家を含む芸術家たちも準備と設営に携わったことが知られている。エミール・マールは『中世末期の図像学』において、「キリスト昇天」など特定の主題に聖史劇や活人画を含む中世の演劇の台本が下地となっていると推察した。彼の主張はそのあとメイヤー・シャピロが先行する神学的議論を示したことで覆されたものの、中世から近世までの絵画・彫刻に演劇史が及ぼした影響を考慮することは作品の図像解釈、成立背景を理解するうえで重要である。

④イコノグラフィーとイコノロジー

美術作品の主題を同定し、記述し、その意味を解明する研究方法。イコノグラフィーの代表的な学者にはエミール・マールがあげられ、彼は過去の史料を精査し多くの図像源泉を突き止め図像の意味内容を明らかにした。図像の慣習的意味内容を明らかにするのみならず、特定の文化・社会における因子を考慮し図像の多層的・重層的な意味や象徴詩を解明する方法論がイコノロジーである。代表的研究者としてはアビ・ヴァールブルク、エルヴィン・パノフスキーがあげられる。パノフスキーによると、美術作品の研究には三つの段

階が存在する。第一にイコノグラフィー以前のモチーフの記述による主題の把握。第二にイコノグラフィーの分析による主題の理解。第三にイコノロジーによる特定の社会・文化の生成物としての作品の解明である。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： 日本東洋西洋の美術

【出題の意図】

日本東洋・西洋の美術史および関連諸分野に関する基本事項を語句説明の形で記述させることで、美術史学に対する基礎的な知識を問うことを意図している。

また、日本語を用いて美術史の基礎概念や方法論を論理的に分かりやすく記述する能力があるかを確認する。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： 英語

【正解・解答例】

15世紀から16世紀初期にかけて、ブルゴーニュ公領ネーデルラントで用いられた
絵画の新しい様式は、意味を伝達し反映し、更には定義するため、芸術作品の可能性
を抜本的に探ることを促した。代表的な画家たちの、時に驚くほど生きているかのよ
うな効果を作品内に生み出す一人物・事物・そして光と影と大気の効果によって一見
して説得力のある空間に置かれた物の物質性と様相を示唆する一能力に基づきつつ、
解放された自然主義と迫真性は、宗教的作品において本質的には絶対的あるいは第一
の関心ではない。なぜならそれらは必然的に現世内における、あるいはそれを超えた
超自然的な真実性にかかわるからである。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： 英語

【出題の意図】

15・16世紀初頭のネーデルラント美術における錯視的表現の特徴とその背景にある神学的・光学的議論について論じた重要かつ基本論文である。専門用語を適切に訳する能力と時代背景の理解力を判断するために出題した。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： 英 語

【正解・解答例】

1883 年以前のある時、「動植綵絵」と名付けられた若冲による掛幅が六幅、京都博覧会において展示された。竹本正興は、この博覧会を訪れ、これらの絵画のもっとも印象的な特徴は煌めくような色彩であると指摘した。「動植綵絵」のみならず、若冲の着色画のほとんどは、その濃厚な色彩で人々を魅了する。もし絵の具の質が悪ければ、たとえ慎重に保存されたとしても、時が経つにつれて作品はやがて色褪せてしまうか、あるいはよりくすんだ色彩になってしまうだろう。一方、上質な絵の具が使われた場合は、たとえ画面がくすんでしまったとしても、修理によって元の色を取り戻すことは可能だろう。

若冲の作品の色彩は濃密なので、人々は若冲が厚塗りしているという印象を持つかもしれない。しかし実際には彼は上質な絵の具をとて薄塗りして描いている。上質な絵の具を用いれば、鮮やかな色を出すのに厚く塗る必要はなかった。唯一の例外は、彼の描いた伏見人形の図である。この地元の人形の素朴な美を表現するために、若冲はあえて比較的質の悪い絵の具を用いている。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： 英 語

【出題の意図】

日本東洋美術史の研究に必要な、英文読解の基礎的な力について問う意図がある。また、英文による日本文化の解説文の翻訳作業を通じて、単なる逐語訳ではない、日本文化に対する背景理解の深さも問う。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： フランス語

【正解・解答例】

1.続いて詳細な説明が続くが、[その内容は]自明である。話し手は聞き手の方を向き、口を半ば開かなければならない、等。この断片において、特別な注意は様々な議論を列挙する際に話し手の指を置く位置に向けられている。

2.自分の指で数える古代や当代の雄弁家が想定されている[我々は想像する]ののではない。ルネサンス期の雄弁家を特徴づけるうえで、この身振りには特定の条件が求められる。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： フランス語

【出題の意図】

ルネサンス期イタリアと北方の絵画作品に多く見いだされる、ある共通の身振りについて検証した論考である。作品の意味内容を理解するうえで身振りが持つ修辞学的意味内容について理解することの重要性を論じている。

フランス語の翻訳能力とともに時代背景の理解力を判断するため出典とした。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： 漢 文

【正解・解答例】

王黙は項容を師とす。風顛にして酒狂なり。松石山水を描く。高奇に乏しと雖も、流俗また好めり。酔後、頭髻をもって墨を取り、絹に抵して画く。王黙、早年に筆法を台州の鄭虔より授かる。貞元の末、潤州において没す。柩を挙げるも空なるがごとし。時人皆云えらく化し去ると。平生大いに奇事有り。顧著作、知新亭監の時、黙、海中都巡たらんことを請う。其の意を問うに、云えらく「海中の山水を見んことを要むるのみ」と。職をなすこと半年にして、解されて去る。爾後、落筆に奇趣有り。顧生は乃ち其の弟子たるのみ。彦遠の従兄、監察御史の厚、余とつぶさに此事を道う。然れども余、甚しくは黙の画に奇有るとは覚えず。

分野・専門名： 美学美術史学

試験科目： 漢 文

【出題の意図】

日本東洋美術史の研究に必要な、漢文訓読の基礎的な力について問う意図がある。

分野・専門名： 考古学

試験科目： 考古学

【正解・解答例】

1. 異なる地域のモノが類似した形状を示す場合、どのような可能性が考えられるか。考える可能性を書きなさい。

解答例：異なる地域のモノの形状が類似する場合、搬入・伝播・自然発生のいくつかの可能性を考える必要がある。搬入の場合は、他所（あるいは）からそのまま持ち込まれた場合である。伝播の場合は、情報・モノ・人のいずれか、あるいはこのうち複数が伝わった可能性がある。視覚的特徴のみが類似する場合は、情報・モノのみ伝播し模倣された可能性もあるが、不可視の属性や模倣が非常に困難なレベルの技術が用いられている場合は、元の製作者/集団が情報や技術を教示している、あるいは製作者/集団が移動している可能性も考えられる。何がどのレベルで伝わったのか、そして元となるモノの特徴のうちどの特徴が受容・排除されたのかは、そのモノの複数の特徴を地域間で比較する必要がある。最後の自然発生は、たまたま似ている可能性である。可能性は非常に低い、これを否定するには伝播や搬入の可能性を検討し排除する必要がある。

2. 右の図について知るところを述べなさい。

解答例：大阪大学の都出比呂志氏によって提起された、前方後円墳体制論に関する図。古墳時代前期の定型化した前方後円墳の築造が、一元化された政治秩序を表すものの議論。前方後円墳体制においては墳丘の規模が被葬者の実力を、形態が出自・格式を示すとされた。都出氏はこの議論において、古墳時代はすでに国家段階に達していたと論じた。

3. 考古学における航空レーザ測量技術の活用について知るところを述べなさい。

解答例：航空レーザ測量技術は、航空機から発するレーザ光の反射速度から対象物との距離を計測する方法で、樹木の下での微地形を捉えることができる技術的特性をもつ。それによって作成された赤色立体図が、考古学においては古墳の詳細な形状や、山中の古墳等の構造物、山城・山寺などの平坦地の発見等に威力を発揮する。

4. 炭素 14 年代の較正について、知りうることを述べなさい。

解答例：C14 年代法は当初は C14 濃度が一定であることを前提に提案された。しかしながら、実際には大気中の C14 の濃度が一定でないため、得られた値は実際の年代とは乖

離する可能性が生じる。そのため、この誤差を補正する、つまり較正するために、年代が既知の資料（例えば、伐採年が分かる資料で行われた年輪年代による年代）から作成された較正曲線を用いる。日本では北半球で汎用性がある IntCal 較正曲線が用いられており、数年おきに更新されている。

5. 考古学に関連する次の用語について、知るところを述べなさい。

遺跡については所在地も記すこと。

(1) 吉胡貝塚

解答例：愛知県田原市に位置する縄文時代後期～晩期を中心とする大規模な貝塚遺跡である。近年までの調査では、縄文中期から中世の資料が見つかった。文化財保護法制定後に調査された初めての遺跡である。それまでの調査でも多数の人骨、腰飾・貝輪などの獣骨・牙・貝製品の装身具、漁労具などが出土しており、これらの研究で必ずといってよいほど取り上げられる資料群である。古人骨には抜歯・叉状犬歯等、生前の風習と考えられるものもみられる。また、人以外に多数の獣骨が見つかったが、イヌについては埋葬と考えられる状況で出土しており、動物と人間の関係性に関して、示唆的な事例となっている。

(2) 横穴墓

解答例：古墳時代後期を中心とした埋葬方法のひとつ。丘陵の崖面に横穴を掘り、埋葬をおこなった墓であり、墳丘をもたない。内部構造は羨道と玄室からなり、棺座をもつ例もある。

(3) 長屋王邸跡

解答例：平城京左京三条二坊に位置する貴族邸宅跡。出土した大量の木簡は、本遺跡が長屋王邸であることを明らかにするとともに、当時の貴族の家政・生活等に関する多くの情報を提供した。

(4) 連房式登窯

解答例：古墳時代後期を中心とした埋葬方法のひとつ。丘陵の崖面に横穴を掘り、埋葬をおこなった墓であり、墳丘をもたない。内部構造は羨道と玄室からなり、棺座をもつ例もある。

(5) 高輪築堤跡

解答例：新橋-横浜間を結ぶべく高輪海岸に沿って築かれた鉄道用の堤の跡であり、明治

期（明治5年）に開業し、50年後の東京湾埋め立てまで使用された。従来の工法による堤の上に、材をレンガのように整列して積んだ石垣の跡が見つかっており、当時の西洋技術を取り入れたことがわかっている（イギリス人技師エドモンド・モレルの指導）。全面保存には至らず一部の保存のみに留まっているが、考古学だけでなく近代史、鉄道史、土木史としても重要な遺構として国指定を受けている。

（6）モーターハビット（motor habits）

解答例：「文化集団の中で長期的な反復訓練を通じて、筋肉運動と結びつく形で文化的に獲得・維持される身体運動であり、文化的・社会的特殊性を帯びたものである。また、「自動化」された身体運動であるモーターハビットは、一度身体に定着すると変化しにくい。生得的・普遍的なヒトの動作というよりも、あくまでも特定の文化的・社会的コンテキストの中で学習されるという側面が強調される。加えて、文化・社会の構成員全体または特定のサブグループに共有され、世代を超えて長期的に維持され、道具の形態や様式の長期的固定化にも関わるとみられている。」（平川ひろみ 2023「考古学からみた土器製作者のモーターハビット」『The Japanese Journal of Psychonomic Science』41（2），p. 131 より）

分野・専門名： 考古学

試験科目： 考古学

【出題の意図】

1. 考古学の方法論に関する知識と洞察力を問う問題である。
2. 考古学における著名な学史に関する知識を問う問題である。
3. 文化財における科学技術の活用に関する知識を問う問題である。
4. 考古学における理化学分析の活用に関する知識を問う問題である。
5. 遺跡・遺構・遺物等、考古学に関する用語の知識を問う問題である。

分野・専門名： 文化人類学

試験科目： 文化人類学

【正解・解答例】

問 1

- ・ 問いに対する基本的な理解を示す記述がなされている
- ・ テーマ群に関する具体的な言及が含まれている
- ・ 文化人類学の先行研究や関連する研究などを提示している
- ・ 文化人類学の主要な用語・概念を適切に使用できている
- ・ 論理的な構成により、説得的かつ独創的な主張が展開されている

問 2

- ・ 出題された英文について、適切な訳語を用いながら要約できている
- ・ 文章の主旨を正確に把握している
- ・ 客観的な記述ができている
- ・ 誤訳・誤読がない
- ・ 日本語として自然で読みやすい文章構成になっている

問 3

- ・ 研究テーマが明確に設定されており、問いの意義が簡潔に説明されている
- ・ 研究の対象・フィールド・資料・方法などが適切に挙げられている
- ・ 研究を行う際の倫理的配慮がなされている
- ・ 実現可能性が示されている
- ・ 構成が明快で、日本語としての表現が適切である

分野・専門名： 文化人類学

試験科目： 文化人類学

【出題の意図】

問 1

社会・文化にかかわる多様なテーマについて、文化人類学の基礎的な知識に基づいて論理的に表現する能力を問う。

問 2

英語で書かれた学術誌や書籍を読み、それらを正確に理解し、その内容を要約・表現する力を測定する。

問 3

自らの研究関心に基づいた研究計画の立案の能力を問うとともに、それらを所定の分量に収まる文章で的確に説明する能力を問う。